のがある。これはK字クロッシングのか わりに3路クロッシングを使用してある。 (木下勝蔵)

しんけいせいでんてつ 新京成電鉄

1 事業者の概要

名称 新京成電鉄株式会社, 本社 千 葉県船橋市前原町,資本金12,000万円, おもな事業 地方鉄道業のほか一般乗合 旅客自動車運送事業路線 329 km。 鉄道 従業員 197人,保有車両 電動客車 12 両。

沿革 昭和 21・8 松戸・津田沼間の旧軍 用鉄道施設利用の目的で鉄道敷設免許を 受け,同年10月資本金1,000万円の会社 を設立,同 22・12 営業開始して現在に至る。

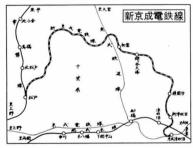


3 シングルスリッ プスイッチ

2 地方鉄道線

開業線 千葉県下常磐線松戸駅に連絡し,京成津田沼から松 戸に至る延長 26.2km の単線, 動力は電気, 軌間は 1.372m で 旅客・貨物運輸の鉄道である。新津田沼・松戸間 25km は昭和 21・8・8 免許を受け, 同 22・12・27 新津田沼・薬園台間を運輸開始

し, その後逐次滝 不動・鎌ヶ谷大仏 に延長,同24・10・ 17鎌ヶ谷初富 (現 在の初富)まで開 業, さらに同 30・ 4・21 松戸まで延 長全通した。新津 田沼·京成津田沼 間 1.2km は昭和



28・9・11 免許, 同年 11・1 運輸開始し京成電鉄線に連絡した。

3 運輸概況

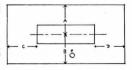
| 項目度 | 昭和28 | 29 | 30 |
|-------------|---------|---------|---------|
| 旅客輸送人員(千人) | 1,361 | 1,294 | 3,466 |
| 人 キ ロ (千) | 5,673 | 5,734 | 16,334 |
| 旅 客 収 入(千円) | 14,831 | 14,917 | 39,584 |
| 運 輸 雑 収(") | 489 | 698 | 1,419 |
| 収入合計(") | 15,320 | 15,615 | 41,003 |
| 営業費(") | 17,564 | 18,092 | 48,666 |
| 営業利益(") | △ 2,244 | △ 2,478 | △ 7,663 |
| 営業係数(%) | 114 | 116 | 115 |

(石川 貢)

しんごうあつかいしょ 信号扱所 (英) signal cabin 第1 種の連動機を収容し、集中されたてこ等により信号機・入換標 識・転轍(てんてつ)器等を操作するため設けられた建物をいい, 取扱者が常駐するのを原則とする。信号てこのみ集中した建物 で信号扱所と呼ばれるものが例外的にあるが、これは一般には てこ上家程度にすぎない。また転轍てこのみを集中し, 取扱者 の常駐するものは集中てこ扱所と称して信号扱所と区別する。

信号扱所は一般に作業単位ごとに設けられ, 能率的・経済的 1. 信号扱所の大さ な位置が選ばれる。この内部には

連動図表・照明軌道盤等の関係設 備のほか, 打合わせ・連絡用の各 種装置が設備される。その建物は 信号保安装置の種別・建物の規模 の大小により差異はあるが, ①



装置扱室 ② 継電器室 ③ 仮眠 室 ④ 動力室 ⑤ 電源室 ⑥ 湯沸所 ⑦ 便所 ⑧ 倉庫等の 諸室を有し、このうち機械てこの みの場合は①と③,電気てこ(継 電も含む)を併用あるいはそれの みの場合は①②③を最低限必要と



2. 信 号 扱 所

各室の面積は規模・種別により 一概に述べられないが、一例としててこ扱室について記せばつ ぎのようである。

1 機械てこを有する扱室

扱室の大きさはてこ本数, すなわち機械穴の大いさによって 決定する。いま説明の都合上, 図のようにABCDなる符号を

用いることにすれば、Aは 機械中心から取扱者反対側 壁面までの距離で、機械の 後端と壁面までの距離によ り定まる。これは 60cm 以 上と規定されてあり、電気 鎖錠器を付けた場合さらに この後端から壁面まで60 cm とらねばならない。機 械中心から機械後端までの 距離はてこ本数により変っ てくる。それで当然Aの値 もてこ本数により変るわけ である。

てこ本数に応じて, Aの



3. 梅小路駅信号扱所



東貝塚駅信号扱所(内部)

値を結果的に数表化すれば次表のとおりである。

| てこ本数 | 電気鎖錠器 | 電気鎖錠器のある場合の A | |
|-----------|----------|----------------------|------------------------|
| | 無 し A | 鎖錠器がブラケッ トの上に乗る場合 | 鎖錠器がブラケット の後方に張出す場合 |
| 8. 9. 10. | 136.4 cm | 139.2 cm | 168.1 cm |
| 12. ~ | 145.3 | 149.1 | 177.5 |
| 16. ~ | 154.2 | 157.0 | 185.9 |
| 20. ~ | 163.0 | 165.8 | 194.7 |
| 24. ~ | 171.9 | 174.7 | 203.6 |
| 28. ~ | 180.8 | 183.9 | 212.5 |
| 32. ~ | 189.7 | 192.5 | 221.4 |
| 36. ~ | 198.6 | 201.4 | 230.3 |
| 40. ~ | 207.5 | 210.3 | 239.2 |

Bは機械中心から取扱者側壁面までの距離で,これは機械操 縦および線路注視の動作に対し十分なようにとる必要がある。 てこによっては相当扱いが重いものがあり、これを扱うには機 械中心から手前に 175cm の作業スペースが必要である。それ にさらに通路用として 75~80 cm の空間が必要で、結局Bの値 は 250cm となる。

C, D は主として出入口前スペース・扱指令者用机・ストー ブ・いす・書類棚および通路空間として占められる。ゆえにそ の場合ごとに最良の平面計画で最小面積をとらねばならない。

2 機械てこを有せざる扱室

扱室に設置される主要機械は,第1種電気連動機,第1種・ 第2種継電連動機である。この場合1の機械てこの場合のよう に機械穴から規定されることはなく, 連動機の大きさ・作業員 の数と質が平面を決定する大きな要素となる。連動機のほかに